

平成 30 年 9 月市長定例記者会見の概要と質疑応答

平成 30 年 9 月 4 日（火）
午前 11 時～午後 0 時 10 分
柏崎市役所大会議室

1 台風第 21 号に関する情報

庁内情報連絡会議を昨日 3 日と本日 4 日に開催しました。その後、市警戒本部を設置しました。

本日の夕方から非常に強い風が吹きます。午後 3 時過ぎから暴風域に入ります。本日午前中に、防災無線で注意喚起を行います。そして、午後 3 時に市内のコミセン 31 箇所を避難所として開設します。食料などは、各自で用意する自主避難というかたちです。各部が早め早めの対応をしています。小・中学校は、基本的に午前中、遅くとも午後 3 時までに、下校するよう指示を出しています。大半が、午後 1 時 30 分頃から下校をするようです。また、市が関係する施設・お年寄りの施設などにも、注意喚起の連絡をしています。

2 発表事項

(1) 市内情報産業売上規模 70 億円を目指して

（主管：ものづくり振興課・企画政策課）

柏崎市の情報産業は、昭和 61 年のソフトパーク構想から始まり、現在 28 年度時点で、48 億円を超えました。県内での市の情報産業の売上規模は、新潟、長岡に続いて、3 番目です。新潟の 900 億円弱、長岡の 200 億円弱に比べると、1 桁違いますが、8 万人規模の自治体としては、情報産業が発達している自治体だと思います。その産業レベルをさらに約 1.4 倍、70 億円の売上規模を目指したいと考えています。

その支援策として、市情報政策官の吉田さんが柏崎市の情報産業の方々に、無料でアドバイスを行います。吉田さんは、市の情報システムを 10 億の単位で合理化を進め、財政を縮減し、情報システムを充実させた明らかな実績があります。第 3 セクターの（株）カシックス以外にも、民間の情報産業の会社がいくつかあります。吉田さんの力量を市だけでなく、民間の企業の方々にも発揮してもらい、柏崎市の情報産業の規模と質を底上げしたいと思っています。

吉田さんの相談に加えて、市内の情報産業の方々を対象に、IT テストフィールドを提供する

取り組みも始めます。現在、市内の IT・ソフトウェア産業協会の正会員は、12 社です。それぞれ、自治体向け、建設業向け、印刷業向けの情報システムを構築したり、ネットワークサービスを構築したり、各種 IT 関係のサービスを提供しています。この 12 社を中心に、こういったシステムを行政に使ってもらえないだろうか、ということのテストフィールドの場として市が協力します。行政事務は、多くの自治体で共通するところが多いはずで、その部分を、市を使ってもらい、ソフトウェアの開発、ネットワークの開発、システムの構築に役立ててもらおうということです。

想定される業務例として、保育園の請求書などの財務伝票処理に RPA（ロボティックス・プロセス・オートメーション）を導入して、簡素な請求体系、財務伝票会計を作っていこうということが考えられます。

(2) 今夏の海水浴客は 60 万 4 千人

—日本海側初の海水浴場開場 130 周年—

（主管：商業観光課）

今年、日本海側初の海水浴場として、開場 130 周年迎えました。力を入れて、いろいろなイベントをやっていますが、残念ながら今年の入込みは、60 万 4 千人でした。去年は、60 万 1220 人だったので、ほぼ、昨年と同じでした。去年は、大雨被害などがあったので、その風評も含めた人数でした。今年、天候は、良かったです。酷暑で、市、県内の海水浴場、全国の屋外の行楽地で入込み客が、減ってしまいました。7 月の入込みは、昨年と比べて 15 パーセント強増えました。しかし、海水浴のトップシーズンである 7 月の下旬から 8 月が酷暑で、昨年と比べて 3 パーセントの減となりました。平成 28 年の 80 万人弱の入込みと比べると、20 万人も減りました。減った原因は、天候だけでは、ないのかもしれませんが、県内の海水浴場、全国の行楽地、屋外型の行楽地は、もっと激しい落ち込みをしているので、よくここで留まったと言えます。

7 月 8 日から 8 月 16 日までの海水浴場の開場期間中は、海水浴場内の死亡事故が、1 件もありませんでした。これは、ライフセーバーなどの力によるところが大きいと思います。しかし、海水浴場外で水上バイクの遭難、素潜りなどでの死亡事故があったことは、非常に残念です。

海水浴シーズンは終わりましたが、ビーチピクニックやビーチベンチプロジェクトが進行中です。今後、柏崎小学校の皆さんが、自分たちで作ったビーチベンチを見学に行くので、私も一緒に行きたいと思っています。ビーチベンチプロジェクトは、荒川製材所、リトルウッド、柏崎小学校の皆さん、市民の皆さんに協力をいただきました。みなとまち海浜公園、青海川

の恋人岬、宮川、鯨波、西番神に、計7台のビーチベンチを置きました。夕暮れ時を含めて、ベンチに座りながら海の良さを改めて感じてほしいと思います。ビーチピクニックも既に周知済みです。「かしわざき岬めぐり」も非常に好評で、多くの方々が訪れています。

(3) 「水球のまち柏崎」PR 動画が完成

(主管：水球のまち推進室)

市内の工業高校の女性5人と総合高校の男性1人女性3人の合計9人と内山ミエさんが作った動画が完成しました。内山ミエさんは、YouTuber で、柏崎ファンクラブ公認 SNS の特派員、K_Tuber です。内山さんに、動画の構成をお話しいただきたいと思います。

内山：動画の構成は、水球の補欠選手がスタメン選手に憧れて、自主練習でシュートをしますが、外れてしまい、自信を失くしていきます。気晴らしに柏崎の夕日を見に行ったり、いつも行くラーメン屋さんでラーメンを食べたりして、店長や市民の方に頑張れよと声をかけてもらい、元気を取り戻していきます。そして、再びプールで練習をして、シュートが決まるようになるというものです。動画のポイントは、学生たちに水球を知ってもらい、地元愛を育みながら若者に人気の YouTube で動画を公開し、より多くの人たち、特に若い方たちに見てもらえるように制作しました。

市長：ありがとうございます。では、動画をご覧ください。

動画を流す。

市長：今ご覧いただいたのは、1分のダイジェスト版です。全編は、約3分です。盛り上がる場面は、お見せしていないので、ご自身でご覧いただきたいと思います。内山さんには、エキストラ出演でも協力いただきました。本当にありがとうございました。

水球のまち柏崎として、あの手この手でホストタウンも含めて頑張っています。水球のまち推進室の facebook、ブルボン KZ の facebook でも、動画の公開を周知します。もちろん、YouTube の柏崎市公式チャンネルでの配信もしています。今後も多くの皆さま、特に若い方々に興味・関心を持ってもらい、水球のまち柏崎として、知名度の向上と交流人口の増加につなげていきたいと考えています。ちなみにこの制作は、今年の7月から始まりました。内山さんの話だと、この動画を見ればシュートの確立が高まりますので、皆さまにもその辺を含めた周知をお願いします。

(4) 長寿と健康をお祝い 百歳表敬訪問、第二次成人式

(主管：介護高齢課)

この第二次成人式は、柏崎市のオリジナルです。昭和40年から始まり、今年で54回目になります。元柏崎駅長で、当時の老人クラブ連合会長の斉藤源治さんの提案で始まりました。第二次成人式とは、80歳を迎える方の長寿をお祝いすることです。該当者は、約900人で、400人強の出席を見込んでいます。9月27日に行います。

次に100歳の表敬訪問です。私と県の振興局長の2人で、5人の対象者を訪問し、お祝いします。100歳の該当者は、男性3人、女性28人の合計31人です。お祝い品は、内閣総理大臣からのお祝い状、銀杯。新潟県知事からのお祝い状、24金仕上げ手書き蒔絵（まきえ）のトキのぐい呑み。柏崎市からのお祝い状、大久保陶器の花瓶です。

(5) 自分らしく生きていくために

—在宅医療・介護を考えるフォーラムを開催—

(主管：国保医療課)

基調講演をする中村伸一さんは、今年の3月のフォーラムでもお話ししてもらいました。非常に好評で、もう一度違う話をしてほしい、という要望が多く、中村さんに、再び来てもらい、自分が最後を迎えるためのエンディングノートの書き方をテーマに講演してもらいます。医師会の高木先生、佐藤先生、三浦先生との対談もあります。年齢を問わず自分らしい生涯が過ごせることができるように、というフォーラムです。少し体調が悪くなると、在宅医療、在宅介護という現実があるので、その辺も含めた中村さんの指導、医師会の先生のお話しもあればと考えています。

(6) 「街直し」のプロフェッショナルと柏崎の魅力を考える

—イノベーションデザイン会議を開催—

(主管：元気発信課)

シティセールスの一環として本市が持つリソース（資源）を活用した事業、そして企業家を生み出す環境づくりを進めたいと考えています。柏崎に戻っても仕事がないという声をよく聞きますが、実際そんなことはありません。有効求人倍率も高止まりをして人手不足、人材不足が現実です。しかし、自分に合う仕事がないという声が多いのも事実です。それならば、自分で事業を起こしてもらいたいという気持ちも含めて、イノベーションデザイン会議を開催します。中心人物は、内閣官房内閣審議官の間宮淑夫さんです。間宮さんは、内閣官房のまち・ひと・しごと創生本部の事務局次長として、実質的なマネジメントをしていました。まち・ひと・しごと創生本部を国レベルで、どのように地方を考えているのか講演をしても

らいます。その後6人の講師とテーマ別会議を行います。講師の古谷さんは、現在、日本の建築学会の会長です。日本の建築学会の会長が、柏崎に来て、直接お話しする機会は、ないと思います。著名な講師から、直接指導いただけるのは、ありがたいです。テーマ別会議は、講師が、6月下旬から本市が抱える問題、課題への取り組み状況を、実際に見て、課題を産業振興部、市民生活部、都市整理部、総合企画部と議論して、3つのテーマに整理しました。1つ目は「稼ぐ力を考える」。2つ目は「もてなす力を考える」。3つ目は「まちの姿を考える」です。それぞれ時機を得たテーマです。その後も、講師を交えた夜塾を開催します。

(7) 柏崎市民号

「柏崎米山号で行く東京ディズニーリゾート®への旅」参加者募集 (主管：企画政策課)

市民号は、柏崎市がお金を出している企画列車です。夏に、上越新幹線と北陸新幹線の両方を使い、群馬のお菓子メーカー「ガトーフェスタハラダ」に行き、高崎で北陸新幹線に乗り換えて、軽井沢を回って帰るという企画列車を走らせました。秋は、柏崎米山号で東京ディズニーリゾートに行きます。使う列車はリゾートやまどりという素晴らしい電車をJR東日本に用意してもらいました。この企画列車は、平成24年から運行しています。ちなみに、平成24年は、十日町の大地の芸術祭を見に行きました。以後、群馬県、東京都スカイツリー、北陸、富岡製紙工場など、いろいろなところへ行きました。

今回はたぶん、抽選になると思います。お子さんを中心に、お子さんをお連れの保護者、おじいさん、おばあさんと一緒に東京ディズニーランドを楽しんでほしいと思います。何よりも、鉄道を使って、鉄道の魅力を感じ取ってもらえればありがたいと思います。

(8) もしものとき市役所は大丈夫!?

—柏崎市職員災害対応訓練を実施 (主管：防災・原子力課)

9月30日の日曜日午前8時30分から正午まで、本市職員の災害対応訓練を行います。非常勤職員を除く全職員約900人が参加します。中越沖地震相当の地震が発生した場合、どのように対応するかという訓練です。

資料の裏面に、10年間で行った防災訓練をまとめました。平成20年度は、市職員を対象に、地震を想定した1,000規模の訓練でした。その後、県と市で行った原子力災害訓練がありました。水害、土砂災害を想定した訓練もおとしがありました。

私は、県に広域の原子力防災訓練を行ってほしいと話をしています。県は、避難計画を作ってからと言っていますが、避難計画をより実行性のあるものとして作り上げるために、そし

て、避難指針があるので、指針に基づいて訓練が行われるべきではないかと言っています。

3 行事予定

レジュメの3ページに、市議会本会議場での呈茶と第一回柏崎市民茶会の記載があります。9月30日に初めて、それぞれの流派が合同で、第一回の市民茶会を行います。そのPRを兼ねて、市民茶会の実行委員会が議場で、議会にお茶を振る舞います。

私も議会にいましたが、議場でお茶をいただく機会はありませんでした。いい試みだと考えています。

4 質疑応答

◎台風21号に関する質問

記者：自主避難と、避難勧告・避難指示の違いは。

市長：特別警報は出ていないので、避難勧告、避難指示という段階では、ないということです。警報のレベルなので、あくまでも自主避難ということです。

記者：保育園、幼稚園は、下校時間を早めるのか。

市長：私立の幼稚園は、それぞれ対応をしていると思います。

市立の保育園は、それぞれ事情が違います。一律の時間に、下校ということはありません。

台風の状況は、各園に昨日から連絡をしています。

記者：農作物は、例えば稲刈りを早めるなどの動きはあるか。

市長：産業振興部とJAなどが協議しながら農家などに指示をしていると思いますが、米や新道の柿といった、個別の案件は分かりません。

◎海水浴客に関する質問

記者：天候に左右されて入込実績が振るわなかった。市長は夏場だけでない海の魅力の話をしているが、今後の考えは。

市長：ご指摘の通りです。柏崎の観光イコール夏・海水浴と考えられてきましたが、昨年から春・秋の海の魅力をお話ししています。海水浴シーズンは終わりましたが、ビーチピクニック、ビーチベンチプロジェクトなど、秋の海も楽しんでいただきたいと思います。

記者：開場 130 周年のキャンペーンは、海水浴客の入込に寄与した部分があったか。

市長：寄与したと思います。数字が伸びなかったのは、寄与した部分と、酷暑で減った部分で相殺されたと思っています。おととしと比べると海水浴客は、20 万人減りました。ただ、今年 of 県内各海水浴場の入込客の落ち込みは、柏崎より大きいと思います。柏崎はよくここでとどまったというのが正直なところです。130 周年開場のチラシの配布と群馬の上毛電気鉄道に協力いただいた広報活動などが功を奏したと思います。番神自然水族館の効果もあると思います。参加者は 324 人でした。参加者から「楽しかった、来年も絶対来たい」という声がありました。2 回参加した方もいました。夏だけの開催でしたが、天候がいい春・秋に広げる要素があるのかなど、海の魅力づくりを考え、海水浴客の伸び悩みを解消できればいいと思っています。

記者：仮に 130 周年キャンペーンがなければ、入込はもっと減っていたのか。

市長：かなり暑い夏だったので、もっと減ったと思います。屋外型の行楽は、2 桁ダウンでした。その意味で、ここまで抑えられたというのは、キャンペーンなどが功を奏したと考えています。

◎9 月 6 日の知事との会談に関する質問

記者：知事に伝えたいことは何か。

市長：花角知事が就任後初めて、東京電力の柏崎刈羽原子力発電所を視察します。知事には、

発電所を見学した感想を聞きたいと思います。それから3つの検証を、合理的に進めてほしいと伝えます。原発事故の最悪のパターンとして想定される夜間や冬の避難訓練を国、県、市、村が連携して行うべきだと改めてお話をしたいと考えています。

記者：知事にどういう観点で原発を視察してほしいか。

市長：知事に対して差し出がましいことを言うつもりはありません。一県民・一国民として、率直な、素直なところを感じ取ってもらえればいいと思います。

記者：就任3カ月での視察は早いと思うか、遅いと思うか。

市長：早いとか遅いとか言うことではないと思います。知事の日程を全部承知していませんが、非常にタイトなものだと思います。その中で、柏崎刈羽のことを考え、大きな政治課題である原発をこの時期に見てもらうのは、ありがたいと思っています。早いとか遅いという感覚を私自身、持っていません。

記者：評価は求めているのか。

市長：はい。まずは原発を見てもらうと。

◎9月3日の廃炉事業に関する講演会に関する質問

記者：廃炉ビジネスの進捗状況は。地元企業の意識・動きは。

市長：正直、地元の経済界の方を含めて、まだ高い意識を持っているレベルにはないと思っています。

原発推進派の方は、誘致以来、50年間廃炉ということは頭にありませんでした。一方、原発反対派の方は原発を一刻も早くやめようと思ってきました。市長が廃炉計画の話をすることもありませんでした。橘川先生に廃炉ビジネスの可能性について現実的なお話がありましたが、まず、市民の皆さんに意識を少し持ってもらう、ファーストステップとして捉えています。

◎原発停止と柏崎経済に関する質問

記者：富士ゼロックスの閉鎖やイトーヨーカドー丸大柏崎店の閉店と原発の停止は、直接的な因果関係があると思うか。

市長：確かにイトーヨーカドーの閉店、富士ゼロックスの閉鎖は、市にとって大きな出来事です。原発が止まっていることと、イトーヨーカドーの閉店と富士ゼロックスの撤退は直接関係ないと思っています。

平成 28 年のデータですが、市の雇用者所得は新潟市に次いで 2 番目です。原発が止まっても原発のサイト内は、約 6 千人の方が働いています。過去最大の数ではないかと思います。一方、イトーヨーカドーと富士ゼロックスの件は、メンタルの部分、経済用語で言うマインドをおとしめているのは事実だと思います。跡地の利用など、他の民間企業に対して手伝えることがあれば、後押しをしたいと考えています。

◎学校の部活動の在り方に関する質問

記者：加茂市が長期休みの部活動を停止するという動きがあった。柏崎は導入する意向があるか。

市長：加茂市長の見識に基づいたところだと思います。なるほどと思う反面、部活動を一生懸命頑張っているお子さん、保護者から「部活動はやれないけれども、自主練習で行っている」という話も聞いています。市教育委員会で部活動や課外活動の在り方を検討しています。

教育長：国、県から、部活動のガイドラインが示されているので、それを中心に、関係者と協議を進めて、1 つの方向性を出したいと思います。教職員の多忙化といわれていますが、子どもたちの部活動、学校の教育活動をしっかり考えてなくてはならないと感じているので、しばらく時間をください。

◎三富佳一県議の引退に関する質問

記者：柏崎刈羽選出の三富佳一県議が引退の意向を示したが、市長としての受けとめは。

市長：特に土地改良に関して、歴然たる力をお持ちなので、もったいないと思う部分もあります。しかし、自身で勇退を決めたことに敬意を表します。

記者：市長は、市長選で三富さんの支援を受けたと思いますが、保守基盤というか地域動向への影響は何かあるか。

市長：特にないです。三富県議の後継に、与口市議の名前が挙がっていると認識しています。保守基盤うんぬんではなく、柏崎のために仕事をする県議に出馬してほしいと思っています。三富県議は長年、土地改良、農業部分に力強い仕事をしてきました。新しい県議と力を合わせながら穴埋めして、マイナスが少ないように事の成り行きを見守っていかなければならないと思っています。

◎県の3つの検証に関する質問

記者：6日に知事が来た時、3つの検証の疑問について話をするか。

市長：最初に会った時にお話ししています。前知事にもお話をしています。2度も3度も言うつもりはありません。知事に、3つの検証は合理的に進めてほしいとお願いしています。

記者：以前に話をしても、疑問点が解消されていないということか。

市長：まだ釈然としないところがあります。

3つの検証委員会のうちの技術委員会は、福島第一事故の技術的な観点を検証すると言っています。国が行っている福島事故の検証は、国が1年間、13回、1479時間のヒアリングを含んだ調査、検証をしています。国会も独自に8カ月、19回、約900時間のヒアリングを含んだ調査、検証を行っています。それに対して3つの検証委員会の技術委員会は、米山知事が平成28年に就任して以来、3回のみで開催です。これだけ時間と頻度に違いがあるのに、国・

国会が行った検証を乗り越えるものが生まれるのでしょうか。

6号機、7号機の適合性審査を行う原子力規制委員会の審査は約4年間、163回の審査、会合を行っています。仮に3つの検証委員会の技術委員会が6号機、7号機の適合性審査を行うことになって、このペースで検証した結果、知事の判断も含めて再稼働が進んだとします。その後、何かトラブルが起こった時に、今度は国、東電だけでなく、検証した県にも責任が生じるということを前知事にも言いました。そういった意味で、この技術委員会には、特にクエスチョンマークを付けざるを得ないというところがあります。県が責任を生じるというリスクが非常に大きいと考えていますので、技術的な問題は、一貫して国の規制委員会が、責任を負うべきだというふうに言っています。

記者：3つの検証の合理的な進め方とは。

市長：委員会の開催は半年に1回程度です。このペースだと3年で6回の開催です。なぜ、半年空くのかと。集中して頻度を高めて開催すれば、3年かかるものが1年で終わるのではないかと思います。

記者：内容はいいが、頻度を上げてほしいということか。

市長：そうですね。それと、国がこれだけの時間と回数をかけて検証しているところを、もう1度検証するのは合理性に欠けるのではないかと。ダブルチェックという意味で行っているのなら、回数が足りません。いずれにしても合理性に欠けるのではないかなというところでは。

記者：ダブルチェックではなく、県が独自に進めているのでは。

市長：必然的に同じものに、なってきますよね。

記者：知事の姿勢が反映されていたと思うが。

市長：それは前知事ですか、今の知事ですか。

記者：前知事の。

市長：前知事ですね。

記者：知事が変わったことによる影響はあるのか。

市長：分かりません。花角知事になって、どういう方針で3つの検証委員会を動かすのか承知していません。皆さんにもオープンになっていないと思います。私としては、頻度・回数といった問題、項目を含めて、同じことを重ねるだけではなく、頻度を上げて開催してほしいと思います。同じことをやるのであれば、ペースを早めてほしいということです。

以上